

中古文学会関西西部会第五十九回例会 発表要旨

一 『小夜衣』における「はればれし」の機能について 同志社大学（院） 釜丸 祥

『小夜衣』とは、中世王朝物語の一作品である。注釈書が数点刊行され、校本が作成される等、比較的恵まれた研究状況にありながら、『小夜衣』が如何なる語句を用い、またその語句が物語において如何なる意味を持つか、ということについては、管見の限りこれまで研究されてこなかった。そこで、本稿では『小夜衣』において特徴的に使用されている「はればれし」という語句に注目して、『小夜衣』の表現の特性と、その物語上の機能について解析していきたい。

二 『源氏物語』鈴虫巻の不審本文「かの三条の宮」 大阪大学（院） 飯田 実花

『源氏物語』鈴虫巻において、女三宮が六条院から離れ住むことについての言及がある。この場面では、その離れ住む先を「かの三条の宮」と表現するが、女三宮の邸第を「三条の宮」と表現するのは通行する巻序ではこの箇所が初めてであり、「かの」が既述のことからを指示することから考えると違和感がある。本発表では、平安朝仮名散文における「かの」の語を改めて検討することで当該表現の不審点を確認し、この本文の生成過程について考察を加える。